

北見地区消防組合

令和元年救急統計



令和元年 8 月 30 日北見地域救急災害総合訓練



目 次

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）	・ ・ ・ P1～2
2、地区別救急隊出動件数	・ ・ ・ P2～3
3、救急搬送の状況（活動時間の推移）	・ ・ ・ P4
4、傷病者年齢区分別搬送人員状況	・ ・ ・ P5～6
5、傷病程度別搬送人員状況	・ ・ ・ P7
6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況	・ ・ ・ P8～9
7、急病に係る疾病分類項目別重症割合	・ ・ ・ P10
8、医療機関別搬送人員の状況及び管外搬送状況	・ ・ ・ P11
9、病院問合せ回数	・ ・ ・ P12
10、心肺停止傷病者搬送人員、社会復帰状況	・ ・ ・ P13
11、三次医療機関への搬送状況	・ ・ ・ P14
12、特定行為等の実施状況	・ ・ ・ P15
13、救命講習実施状況	・ ・ ・ P16
14、市民による応急手当実施状況	・ ・ ・ P17
15、口頭指導による応急手当実施不可理由	・ ・ ・ P18
16、周産期救急の出動状況	・ ・ ・ P19～20
17、ドクターカー出動状況	・ ・ ・ P20

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）

令和元年中の救急出動件数は6,030件で前年比3.1%（182件）増加し、搬送人員は5,484人で前年比2.3%（121人）増加している。（図1-1、表1-1、表1-2）

図1-1 救急件数の推移（北見地区）

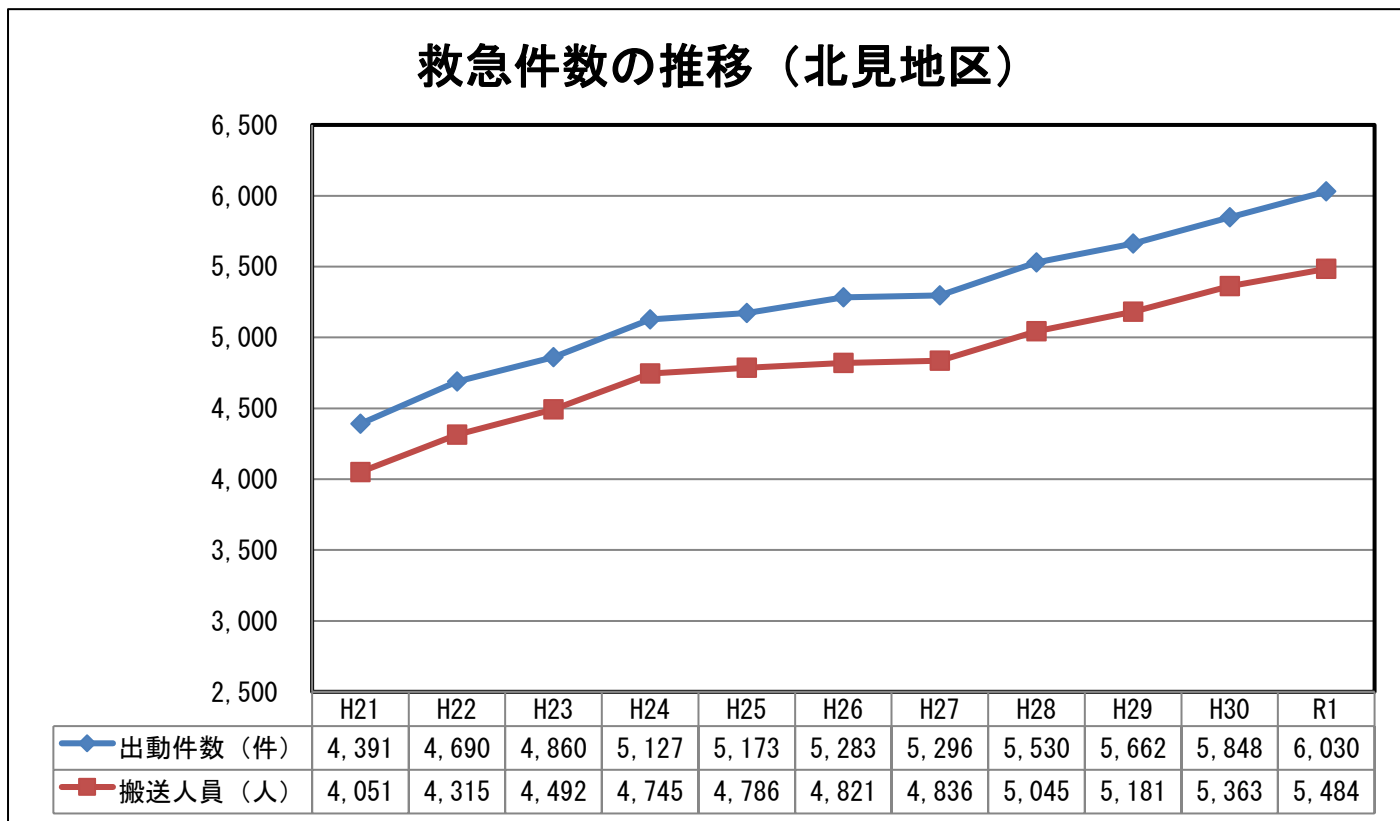


表1-1 年別出動件数内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	訓子府	支署合計	組合合計	前年比
2006（H18）	1,711	1,231	279	3	296	220	358		4,098	168	191	359	4,457	682 18.1%
2007（H19）	1,848	1,202	22	2	470	199	364		4,107	163	214	377	4,484	27 0.6%
2008（H20）	1,729	1,207	18	0	470	215	350		3,989	145	173	318	4,307	-177 -3.9%
2009（H21）	1,831	1,243	10	4	438	181	320		4,027	159	205	364	4,391	84 2.0%
2010（H22）	1,926	1,361	15	4	490	177	353		4,326	168	196	364	4,690	299 6.8%
2011（H23）	1,919	1,404	16	8	554	185	356		4,442	210	208	418	4,860	170 3.6%
2012（H24）	2,028	1,548	27	7	607	185	378		4,780	158	189	347	5,127	267 5.5%
2013（H25）	2,085	1,500	28	8	579	191	419	12	4,822	146	205	351	5,173	46 0.9%
2014（H26）	2,155	1,562	18	8	596	164	399	13	4,915	152	216	368	5,283	110 2.1%
2015（H27）	1,818	1,444	654	7	363	197	426	21	4,930	160	206	366	5,296	13 0.2%
2016（H28）	1,788	1,432	997	9	340	172	379	13	5,130	172	228	400	5,530	234 4.4%
2017（H29）	1,832	1,567	957	12	337	181	378	18	5,282	182	198	380	5,662	132 2.4%
2018（H30）	1,919	1,553	1,022	13	343	172	431	18	5,471	160	217	377	5,848	186 3.3%
2019（R1）	1,891	1,595	1,148	19	341	184	430	20	5,628	179	223	402	6,030	182 3.1%

表 1-2 年別搬送人員内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	訓子府	支署合計	合計	前年比	
2006 (H18)	1,567	1,155	259	2	277	209	333		3,802	157	183	340	4,142	603	17.0%
2007 (H19)	1,692	1,155	9	2	454	201	335		3,848	159	211	370	4,218	76	1.8%
2008 (H20)	1,573	1,155	11	0	435	215	334		3,723	139	166	305	4,028	-190	-4.5%
2009 (H21)	1,666	1,153	3	3	411	168	296		3,700	150	201	351	4,051	23	0.6%
2010 (H22)	1,706	1,281	6	4	467	166	339		3,969	167	179	346	4,315	264	6.5%
2011 (H23)	1,750	1,304	7	8	510	180	332		4,091	202	199	401	4,492	177	4.1%
2012 (H24)	1,861	1,435	18	7	554	178	359		4,412	154	179	333	4,745	253	5.6%
2013 (H25)	1,884	1,438	16	7	530	187	393	7	4,462	140	184	324	4,786	41	0.9%
2014 (H26)	1,921	1,451	7	5	551	156	367	13	4,471	149	201	350	4,821	35	0.7%
2015 (H27)	1,633	1,324	595	6	335	179	406	15	4,493	154	189	343	4,836	15	0.3%
2016 (H28)	1,618	1,335	884	7	313	156	349	10	4,672	161	212	373	5,045	209	4.3%
2017 (H29)	1,645	1,479	856	8	314	163	344	11	4,820	175	186	361	5,181	136	2.7%
2018 (H30)	1,746	1,454	921	9	312	162	400	16	5,020	149	194	343	5,363	182	3.5%
2019 (R1)	1,736	1,439	1047	13	314	164	388	17	5,118	163	203	366	5,484	121	2.3%

2、地区別救急隊出動件数

令和元年中の地区別救急隊出動件数をみると、北見は前年比 2.9%増の 5,628 件、置戸は前年比 12.0%増の 179 件、訓子府は前年比 2.8%増の 223 件となっている。(表 2-1)

自治区別救急隊出動件数では、北見が前年比 3.3%増の 4,673 件、端野が前年比 0.6%減の 341 件、常呂は前年比 7.0%増の 184 件、留辺蘂は前年比 0.2%減の 430 件となっている。(表 2-2)

事故種別割合は、急病 (64.9%) による救急出動が大半を占め、一般負傷 (12.7%)、転院搬送 (9.5%)、交通 (4.8%) となっている。(図 2-1)

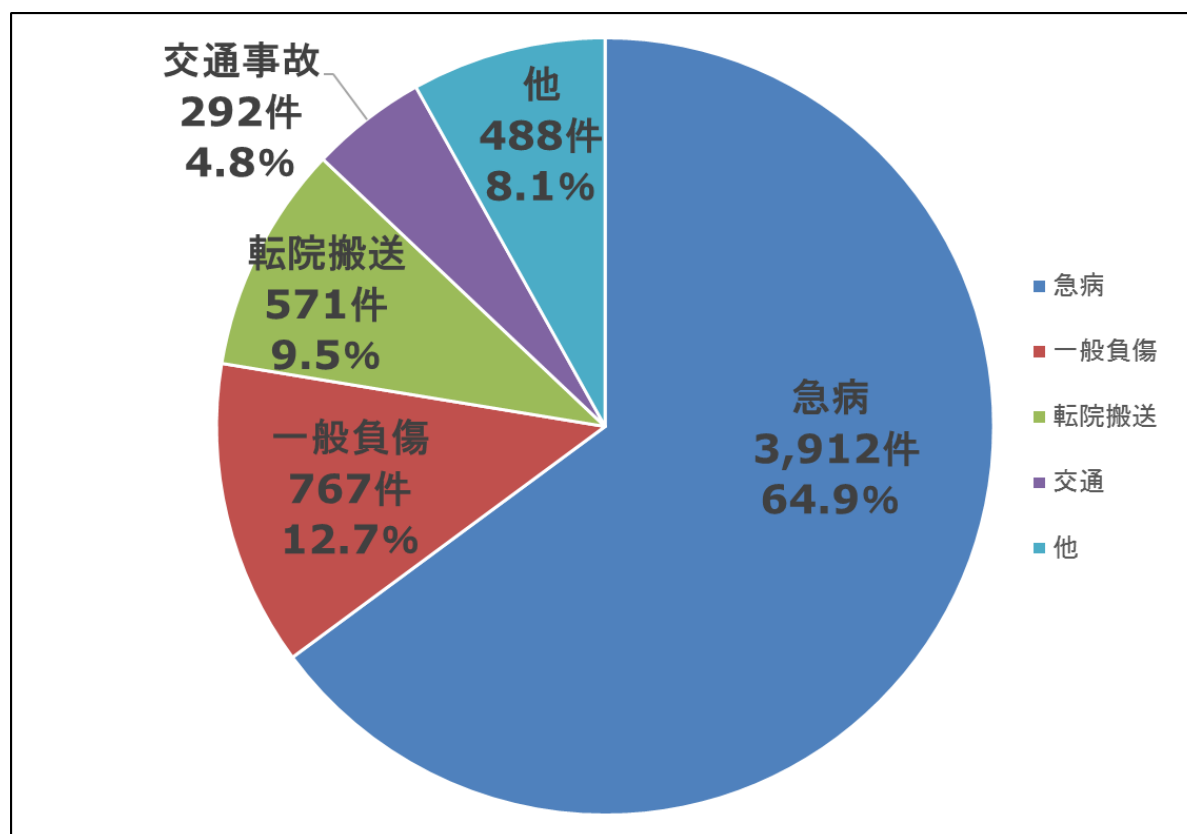
表 2-1 地区別救急隊出動件数

事故種別		火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計
地区別		災	然	難	通	害	動	般	害	損	病	院	師	機	の	
		災	害	難	通	害	技	傷	害	為	病	送	送	材	他	
合	出動件数	47	0	1	292	71	55	767	15	80	3,912	571	4	0	215	6,030
	増減数	11	0	0	△ 22	6	2	△ 19	1	20	167	△ 9	1	0	24	182
	搬送人員	5	0	1	250	68	55	730	13	61	3,734	567	0	0	0	5,484
	増減数	4	0	0	△ 44	4	2	△ 11	1	16	163	△ 13	0	0	△ 1	121
計北	出動件数	40	0	1	278	56	50	722	15	76	3,672	517	4	0	197	5,628
	増減数	13	0	0	△ 18	0	3	△ 18	1	18	134	4	1	0	19	157
	搬送人員	5	0	1	238	53	50	686	13	59	3,499	514	0	0	0	5,118
	増減数	4	0	0	△ 40	△ 2	3	△ 12	1	14	130	1	0	0	△ 1	98
置	出動件数	2	0	0	5	3	3	16	0	2	89	54	0	0	5	179
	増減数	0	0	0	△ 3	3	2	1	0	2	26	△ 10	0	0	△ 2	19
	搬送人員	0	0	0	3	3	3	15	0	1	85	53	0	0	0	163
	増減数	0	0	0	△ 4	3	2	△ 1	0	1	24	△ 11	0	0	0	14
戸	出動件数	5	0	0	9	12	2	29	0	2	151	0	0	0	13	223
	増減数	△ 2	0	0	△ 1	3	△ 3	△ 2	0	0	7	△ 3	0	0	7	6
	搬送人員	0	0	0	9	12	2	29	0	1	150	0	0	0	0	203
	増減数	0	0	0	0	3	△ 3	2	0	1	9	△ 3	0	0	0	9

表 2-2 自治區別救急隊出動件数

事故種別		火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計
地区別		災	然	難	通	害	動	般	害	損	病	院	師	機	の	
		害	災	難	通	害	技	傷	害	為		搬	搬	材	他	
北	出動件数	28	0	0	217	35	35	618	13	66	3,098	403	4	0	156	4,673
	増減数	7	0	0	△ 6	△ 1	3	5	1	12	94	23	1	0	9	148
見	搬送人員	3	0	0	179	32	35	585	12	53	2,951	402	0	0	0	4,252
	増減数	2	0	0	△ 30	△ 3	3	8	1	11	93	22	0	0	△ 1	106
端	出動件数	1	0	0	37	4	8	29	1	6	186	60	0	0	9	341
	増減数	△ 1	0	0	0	△ 4	4	△ 15	0	5	22	△ 13	0	0	0	△ 2
野	搬送人員	0	0	0	39	4	8	28	0	5	172	58	0	0	0	314
	増減数	0	0	0	6	△ 4	4	△ 11	△ 1	4	19	△ 15	0	0	0	2
常	出動件数	4	0	1	9	10	4	13	0	2	107	22	0	0	12	184
	増減数	2	0	0	△ 1	4	△ 1	△ 4	0	2	5	△ 2	0	0	7	12
呂	搬送人員	0	0	1	9	10	4	13	0	0	105	22	0	0	0	164
	増減数	0	0	0	△ 1	4	△ 1	△ 4	0	0	6	△ 2	0	0	0	2
留	出動件数	7	0	0	15	7	3	62	1	2	281	32	0	0	20	430
	増減数	5	0	0	△ 11	1	△ 3	△ 4	0	△ 1	13	△ 4	0	0	3	△ 1
辺	搬送人員	2	0	0	11	7	3	60	1	1	271	32	0	0	0	388
	増減数	2	0	0	△ 15	1	△ 3	△ 5	1	△ 1	12	△ 4	0	0	0	△ 12
薬																

図 2-1 事故種別出動割合



3、救急搬送の状況（活動時間の推移）

令和元年中の現場到着までの平均時間は 7.0 分、病院収容までの平均時間は 32.2 分であった。
（図 3-1、表 3-1）

図 3-1 活動時間の推移

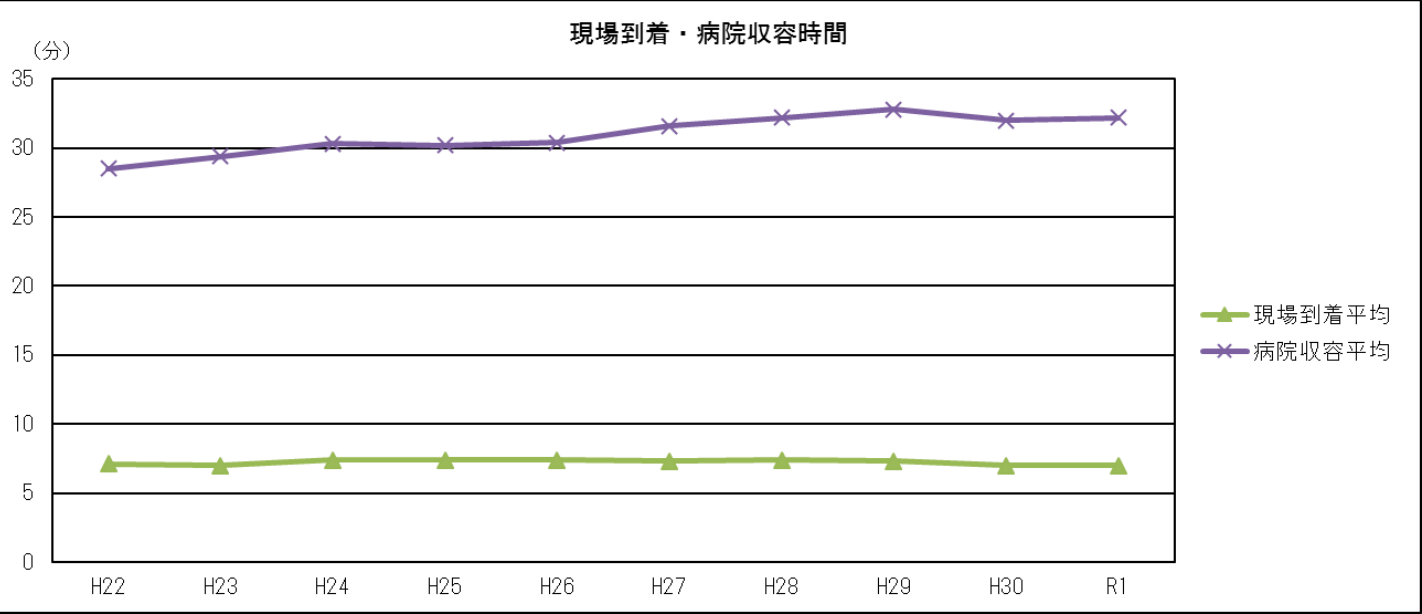


表 3-1 過去 5 年間の活動時間の推移(分)

項目 \ 年	H27	H28	H29	H30	R1
現場到着平均時間（分）	7.3分	7.4分	7.3分	7.0分	7.0分
病院収容平均時間（分）	31.6分	32.2分	32.8分	32.0分	32.2分

4、傷病者年齢区分別搬送人員状況

令和元年中の搬送人員 5,484 人に対し、年齢区分における高齢者(65 歳以上)の搬送人員は 3,585 人となり、全体の 65.4%を占めている。(表 4-1、図 4-1)

高齢化率上昇に伴い、高齢者の搬送人員は年々増加傾向にあり、2 回以上搬送されている高齢者の数は 458 人で延べ出動件数は 1,045 件となっている。(表 4-2、図 4-2、図 4-3)

表 4-1 年齢区分別搬送種別状況

事故種別 年齢区分	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	計
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
乳幼児	0	0	0	12	0	0	35	2	0	136	8	193
少年	0	0	0	25	0	35	17	0	5	81	2	165
成人	3	0	1	142	52	19	151	9	46	975	135	1,533
高齢者 (後期高齢者)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	71 (37)	16 (3)	1 (0)	527 (420)	2 (2)	10 (6)	2,542 (1907)	414 (323)	3,585 (2,698)
計	5	0	1	250	68	55	730	13	61	3,734	567	5,484

- 【年齢分類】
- 新生児＝生後28日未満
 - 乳幼児＝28日以上7歳未満
 - 少年＝7歳以上18歳未満
 - 成人＝18歳以上65歳未満
 - 高齢者＝65歳以上
 - 後期高齢者＝高齢者のうち75歳以上

図 4-1 傷病者年齢区分別搬送人員状況

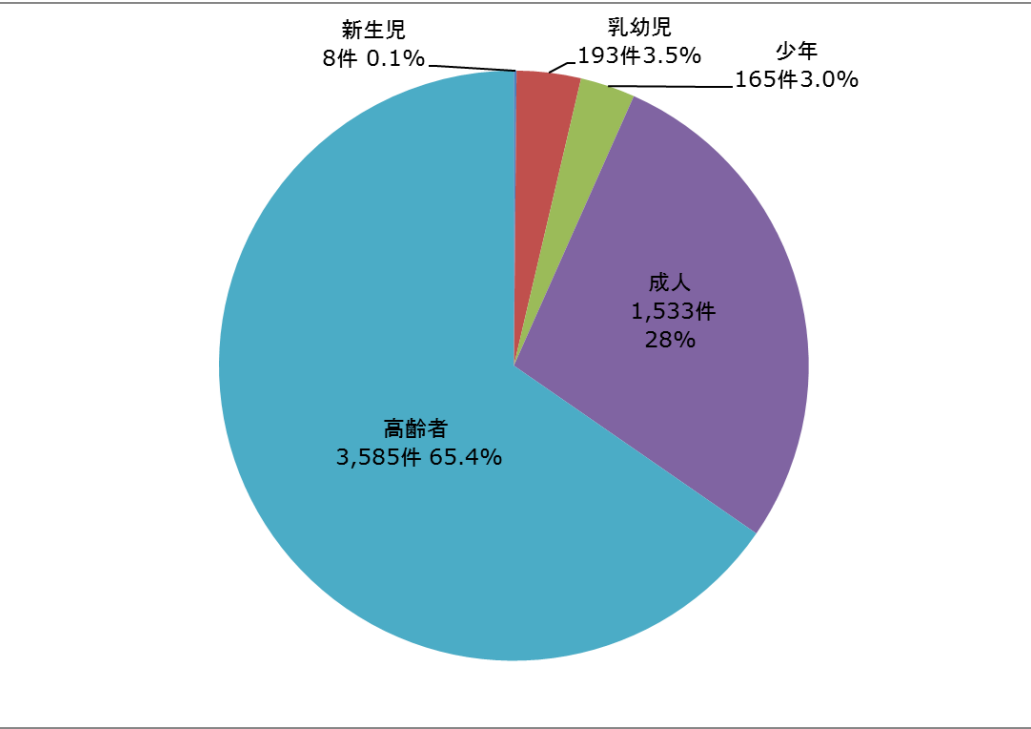
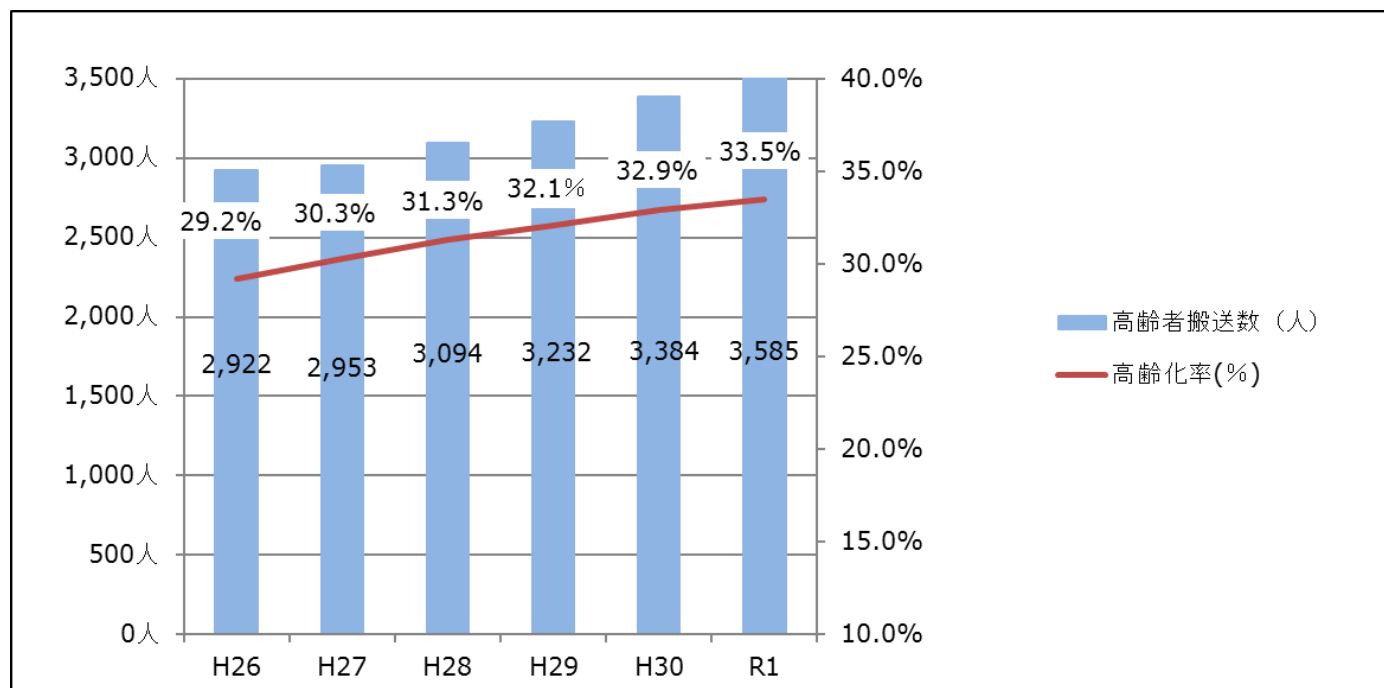


表 4-2 高齢者搬送人員状況

項目	年	H26		H27		H28		H29		H30		R1	
		搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数
急病		2,032	61	2,007	△ 25	2,147	140	2,259	112	2,312	53	2,542	230
一般		427	41	460	33	463	3	503	40	541	38	527	△ 14
交通		79	△ 24	84	5	95	11	83	△ 12	89	6	71	△ 18
他		384	△ 30	402	18	389	△ 13	387	△ 2	442	55	445	3
計		2,922	48	2,953	31	3,094	141	3,232	138	3,384	152	3,585	201
うち老健施設から		413		400	△ 13	421	21	425	4	465	40	473	8

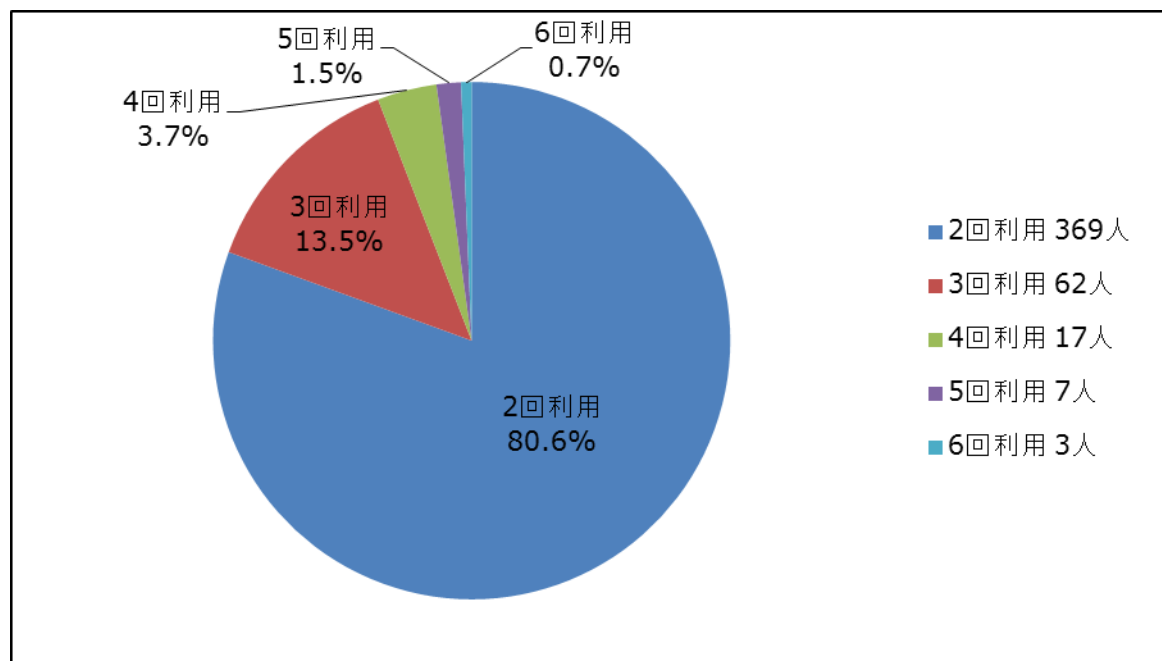
図 4-2 高齢者救急搬送の推移



※高齢者搬送者数は延べ人数

※高齢化率は各年 9 月末の統計（北見市、置戸町、訓子府町から抜粋）

図 4-3 高齢者の複数回利用数



5、傷病程度別搬送人員状況

令和元年中の搬送人員 5,484 人のうち、死亡、重症、中等症の傷病者の割合は 56.0%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は 44.0%となっている。（図 5－1、表 5－1）

図 5-1 傷病程度別内訳

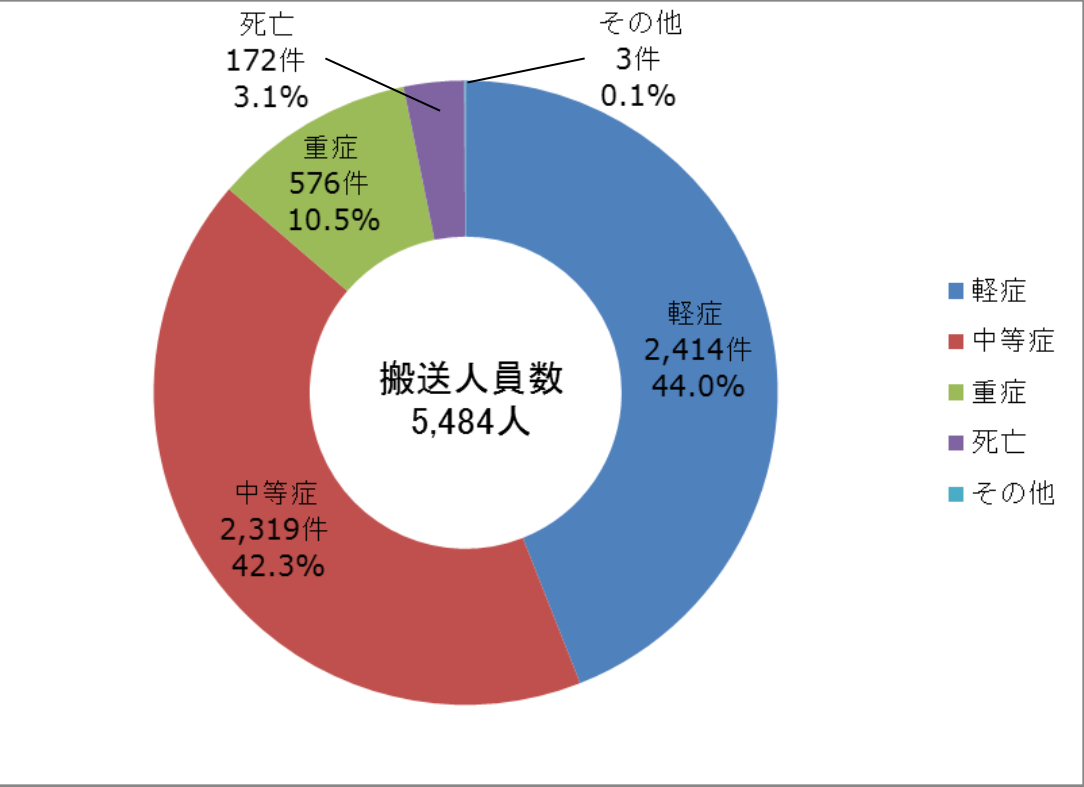


表 5-1 傷病程度分類

事故種別		火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	計	割
程度		災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	院		
死	亡	0	0	0	3	1	0	13	3	7	138	7	172	3.1%
重	症	1	0	1	10	6	0	36	0	6	415	101	576	10.5%
中	等	1	0	0	49	27	12	321	3	26	1,504	376	2,319	42.3%
軽	症	3	0	0	188	34	43	359	7	22	1,675	83	2,414	44.0%
そ	の	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3	0.1%
計		5	0	1	250	68	55	730	13	61	3,734	567	5,484	100.0%

- ※死亡とは、初診時において死亡が確認されたもの
- ※重症とは、傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの
- ※中等症とは、傷病程度が重症又は軽症以外のもの
- ※軽症とは、傷病程度が入院加療を必要としないもの
- ※その他とは、医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、並びにその他の場所に搬送したもの

6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況

令和元年中の急病の搬送人員内訳を世界保健機構（WHO）の国際疾病分類の項目別で見ると、脳疾患 341 人（9.1%）、心疾患 417 人（11.2%）、消化器系 388 人（10.4%）、呼吸器系 398 人（10.7%）となっている。（図 6－1）また、脳疾患では脳梗塞、心疾患では心不全が多く傷病程度はいずれも中等症が最多となっている。（図 6－2）

図 6-1 急病患者疾病内訳

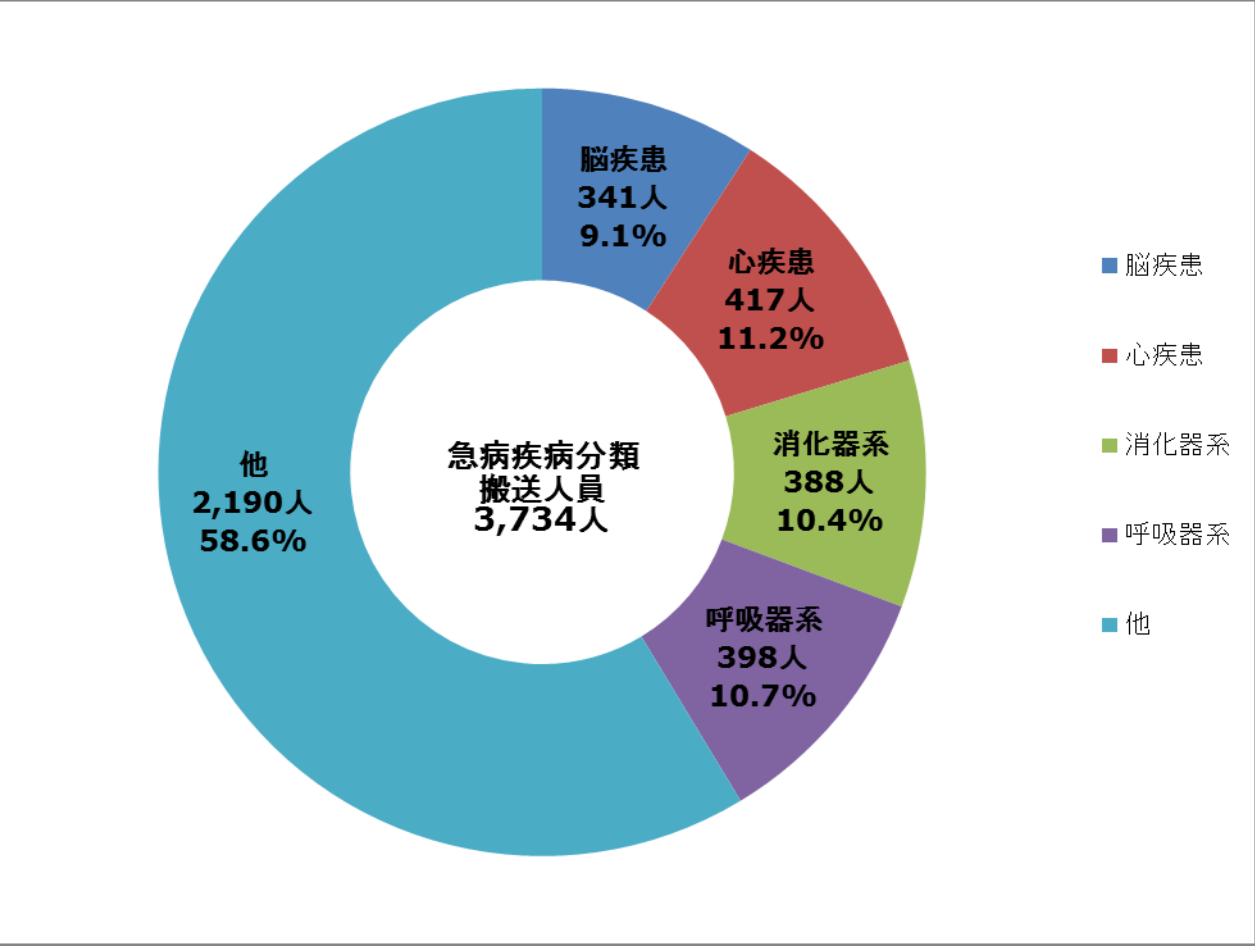
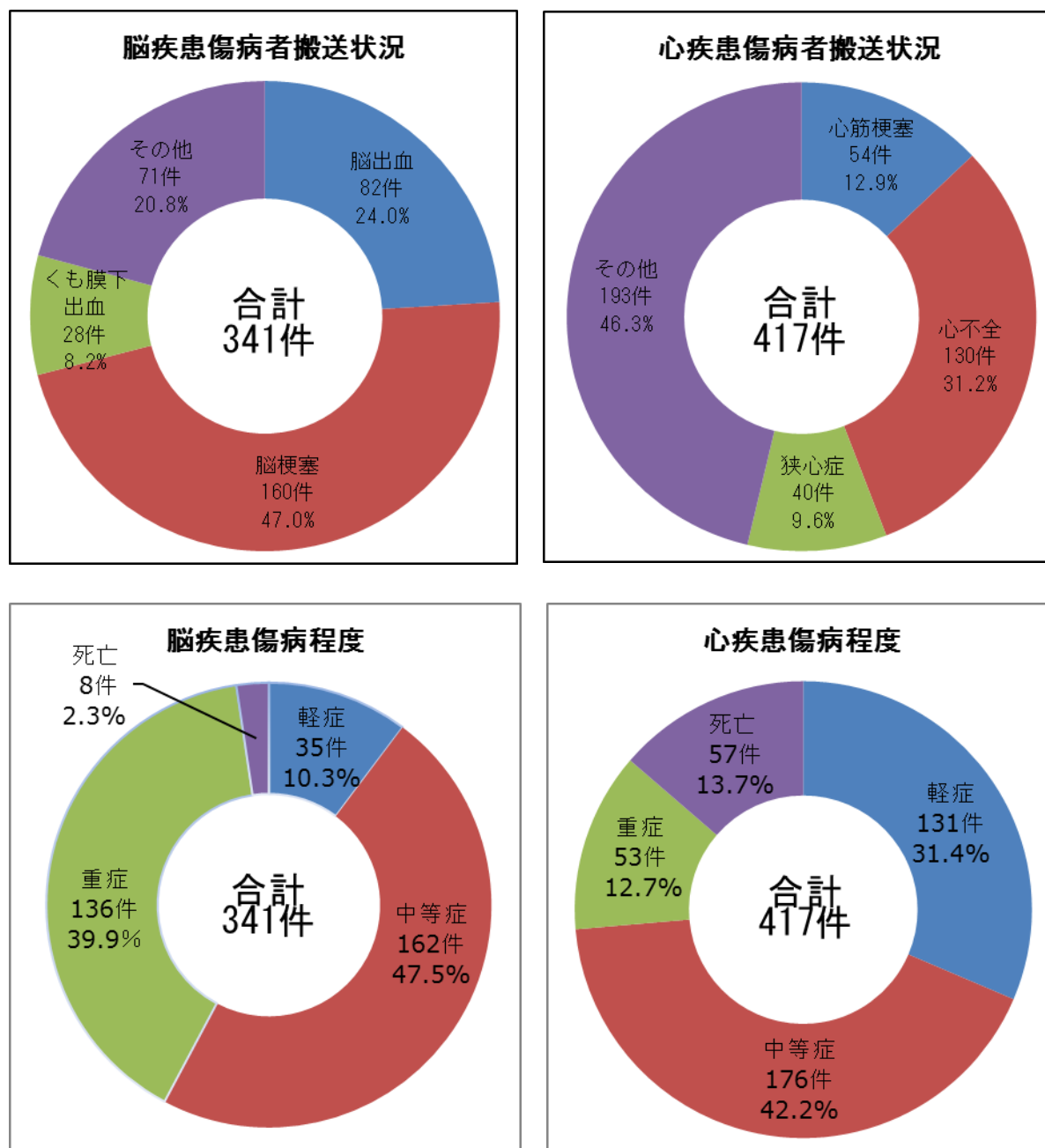


図 6-2 脳疾患及び心疾患搬送者の疾患名、傷病程度



7、急病に係る疾病分類項目別重症割合

令和元年中の急病の疾病分類項目別に重症以上の割合をみると、新生物(44.1%)、脳疾患(42.2%)
心疾患(26.4%)の順となっている。(表7-1)

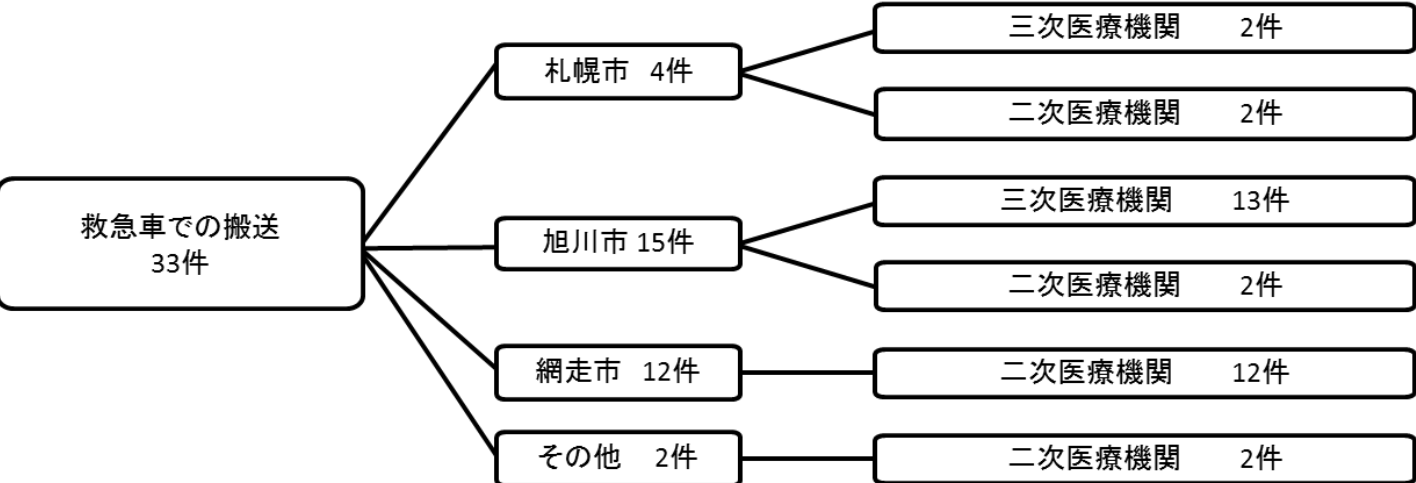
表 7-1 疾病分類項目別重症割合

種別 項目	脳疾患	心疾患	消化器系	呼吸器系	精神系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状・徴候 診断名 不明確	計
搬送人員	341	417	388	398	120	121	151	59	1,725	14	3,734
重症以上	144	110	55	69	5	4	16	26	118	6	553
割合	42.2%	26.4%	14.2%	17.3%	4.2%	3.3%	10.6%	44.1%	6.8%	42.9%	14.8%

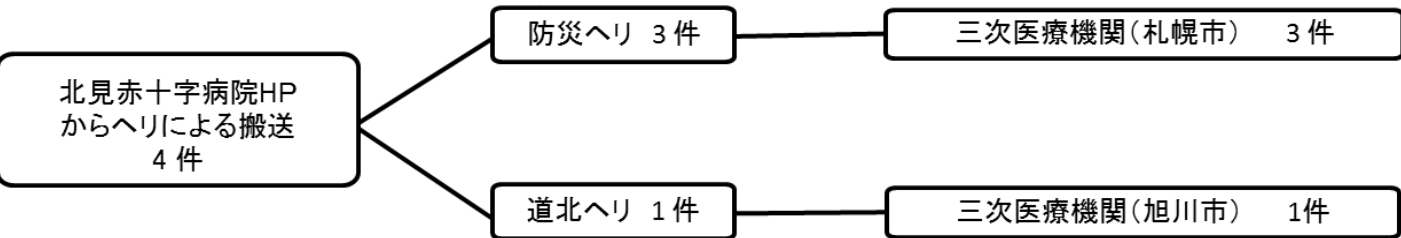
8、医療機関別搬送人員の状況及び管外搬送状況

救急車による管外搬送は、前年より5件減少している。
地域別では、札幌市への搬送が4件減少、旭川市への搬送が5件増加、網走市への搬送が6件減少している。
ヘリコプター等による農道空港からの航空機搬送は前年より3件増加、北見赤十字病院 HP からの搬送は前年より6件減少している。(図8-1)

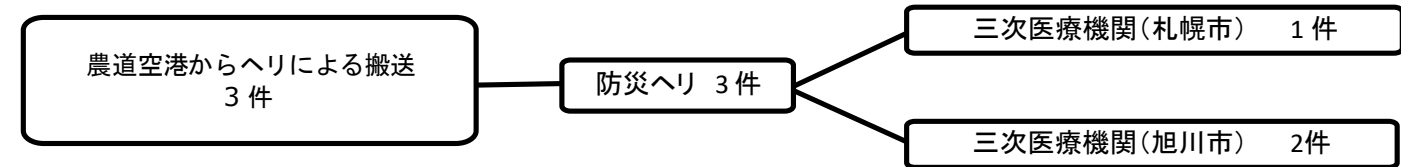
図 8-1 管外搬送状況内訳



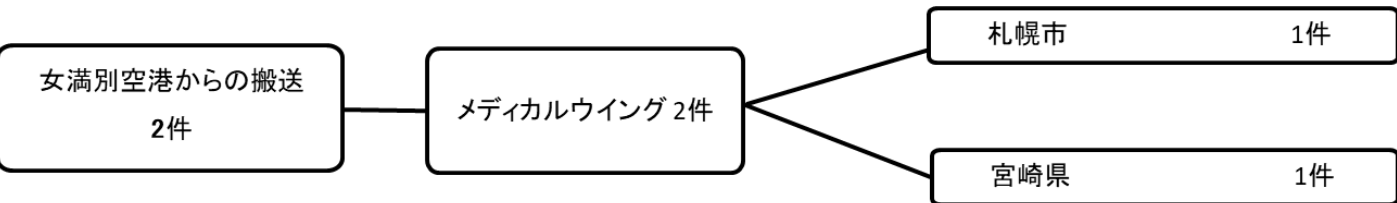
※H30 年管外への陸路搬送：38 件



※H30 年北見赤十字病院 HP からのヘリ搬送：10 件



※H30 年農道空港からヘリ搬送：0 件

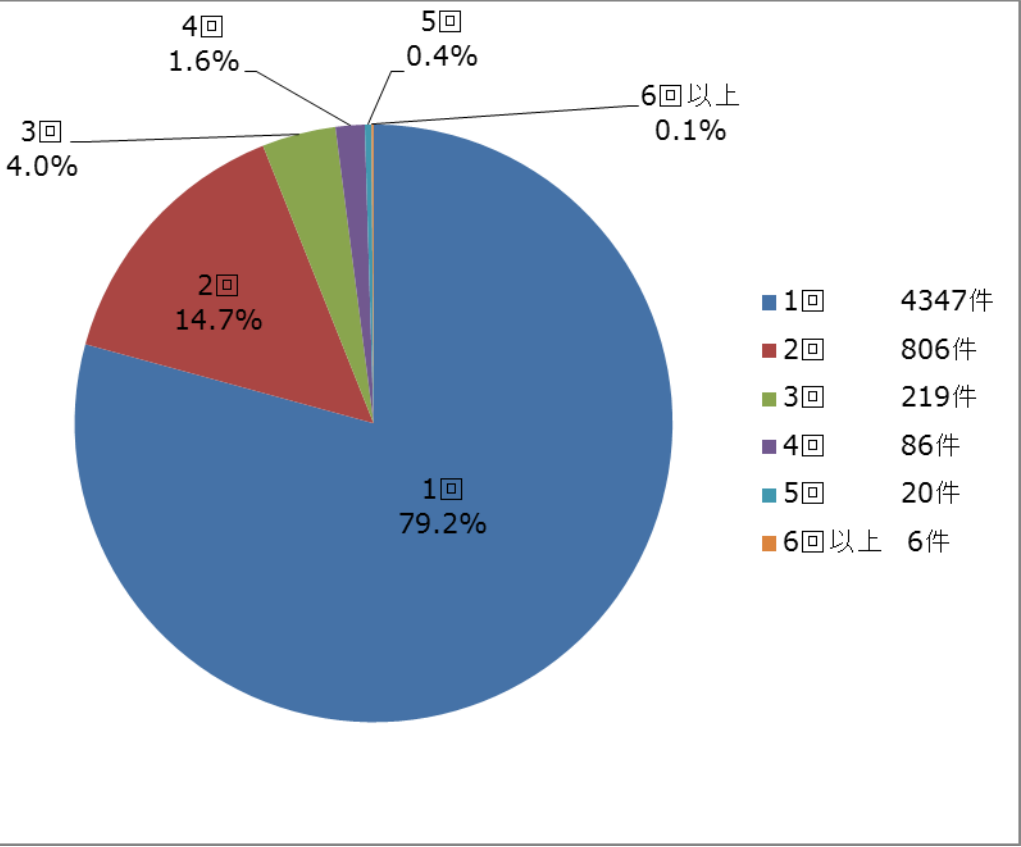


※H30 年女満別空港からメディカルウイング搬送： 3 件

9、病院問合せ回数

令和元年中の傷病者受け入れに係る病院問合せ回数で、1回で決定したものは4,347件(79.2%)、2回以上(最多11回)で決定したものは1,137件(20.7%)となっている。(図9-1)

図 9-1 病院問合せ回数



10、心肺停止傷病者搬送人員、社会復帰状況

令和元年中の心肺停止傷病者搬送数は174人と前年より17人増加した。(図10-1)
社会復帰者数は2人であった。(表10-1)

図10-1 心肺停止傷病者搬送数

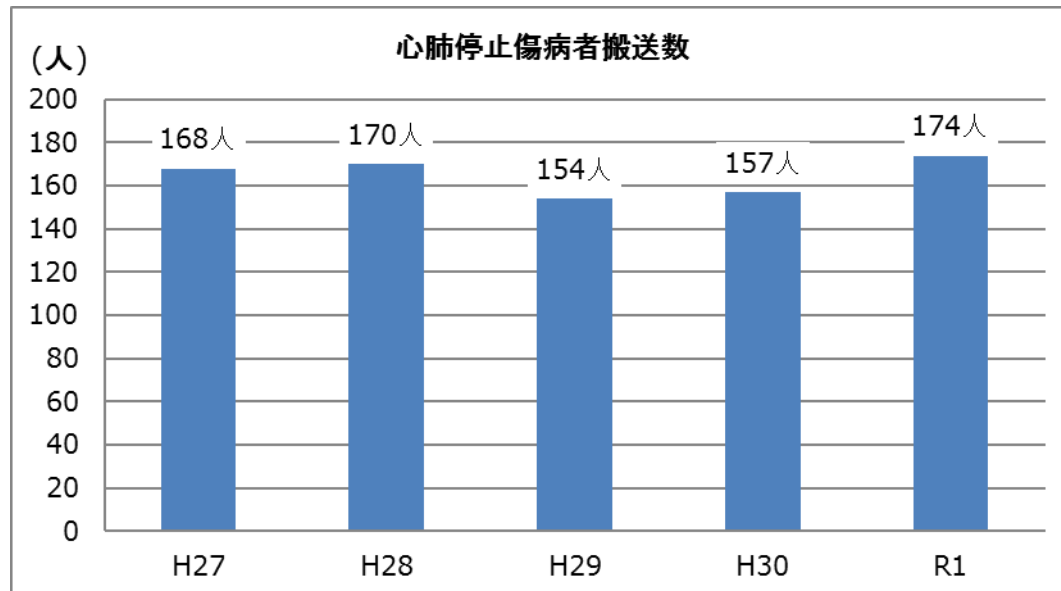


表10-1 心肺停止傷病者社会復帰率(過去5年間)

項目 \ 年	H27	H28	H29	H30	R1
心肺停止傷病者搬送数	168	170	154	157	174
社会復帰者数	11	5	2	10	2
社会復帰率	6.5%	2.9%	1.3%	6.4%	1.1%

※社会復帰者とは、脳機能カテゴリー(CPC)及び全身機能カテゴリー(OPC)が2以下(機能良好もしくは中程度障害)のものをいう。

機能良好とは、普段と同様の生活が可能な状態であり、障害が残っていても軽度の神経症状あるいは精神障害までのことをいう。

中程度障害とは、保護されたパートタイムの仕事が可能であり、介助なしに日常生活が可能な状態のことをいう。

※1ヶ月生存者は、10名(5.8%)である。

11、三次医療機関への搬送状況

令和元年中の三次医療機関への搬送人員は前年と比べ 67 人減少している。

CPA（心肺停止傷病者）の搬送は 174 人中 136 人、77.6%が三次医療機関へ搬送されている。（表 11-1）

表 11-1 二次・三次医療機関搬送状況

項目 \ 事故種別		急病	一般	交通	労災	自損	加害	運動	転院	その他 (火災等)	計
北見地区	搬送人員	3,734	730	250	68	61	13	55	567	6	5,484
	CPA搬送人員	142	14	3	1	8	3	0	3	0	174
三次医療機関	搬送人員	1,779	365	119	39	53	8	20	473	5	2,861
	搬送割合	47.6%	50.0%	47.6%	57.4%	86.9%	61.5%	36.4%	83.4%	83.3%	52.2%
	CPA搬送人員	107	12	3	1	8	3	0	2	0	136
二次医療機関	搬送人員	1,769	332	126	28	5	3	33	52	0	2,348
	搬送割合	47.4%	45.5%	50.4%	41.2%	8.2%	23.1%	60.0%	9.2%	0.0%	42.8%
	CPA搬送人員	32	1	0	0	0	0	0	0	0	33

※CPA 搬送人員…一次医療機関搬送 4 人、管外搬送 1 人

12、特定行為等の実施状況

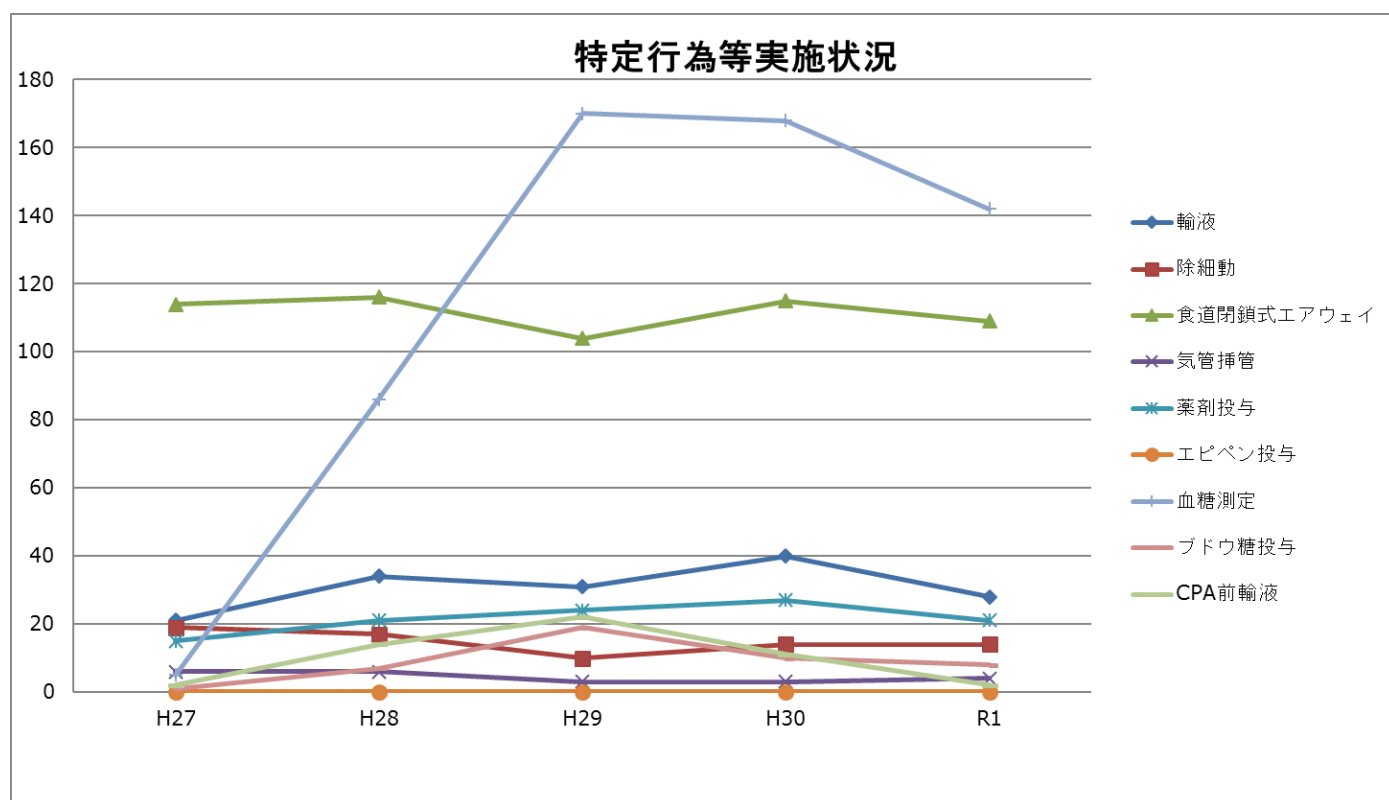
特定行為等の実施状況は、心肺機能停止事案(呼吸停止のみを含む)175 件のうち、113 件(64. 6%)の傷病者に実施されており、内訳として食道閉鎖式エアウェイ 109 件 (62. 3%)、気管挿管 4 件 (2. 3%)、静脈路確保の為に輸液 28 件 (16. 0%)、薬剤投与 21 件 (12. 0%)となっている。

平成 27 年から可能となったブドウ糖投与は低血糖判定 16 件のうち 8 件、循環不全を疑う傷病者に対し CPA 前輸液 2 件を実施した。(表 12-1、図 12-1)

表 12-1 特定行為等実施状況 (過去 5 年間)

年\項目	輸液	除細動	食道閉鎖式エアウェイ	気管挿管	薬剤投与	エピペン投与	血糖測定	ブドウ糖投与	CPA前輸液
H27	21	19	114	6	15	0	5	1	2
H28	34	17	116	6	21	0	86	7	14
H29	31	10	104	3	24	0	170	19	22
H30	40	14	115	3	27	0	168	10	11
R1	28	14	109	4	21	0	142	8	2

図 12-1 特定行為等実施状況



13、救命講習実施状況

過去3年の救命講習実施状況は、普通救命講習及び一般講習等合わせて500回の実施、延べ10,790人の受講となっている。（表13-1）

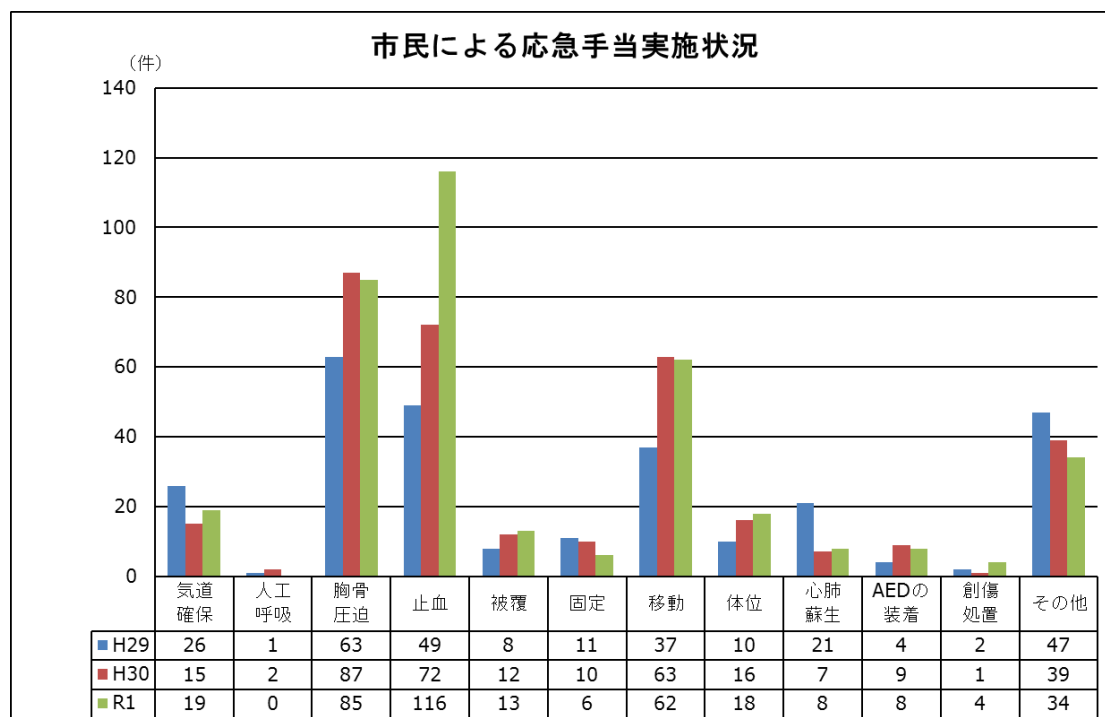
表13-1 応急手当普及啓発講習会実施状況（過去3年間）

年	講習(種類)			回数(回)	人数(人)
平成29年	普通救命講習		普通Ⅰ	76	1,462
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	0	0
			職域関係	0	0
			一 般	0	0
		応急手当 講習	学校関係	2	390
			職域関係	8	145
			一 般	16	231
		短時間 講習	学校関係	24	537
			職域関係	29	669
			一 般	8	146
	上級救命講習			0	0
	普及員講習			4	23
	指導員講習			0	0
患者等搬送事業者			0	0	
計			167	3,603	
平成30年	普通救命講習		普通Ⅰ	89	1,677
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	0	0
			職域関係	0	0
			一 般	0	0
		応急手当 講習	学校関係	1	50
			職域関係	18	60
			一 般	12	359
		短時間 講習	学校関係	33	966
			職域関係	18	363
			一 般	7	139
	上級救命講習			0	0
	普及員講習			1	2
	指導員講習			0	0
患者等搬送事業者			0	0	
計			179	3,616	
令和元年	普通救命講習		普通Ⅰ	72	1,637
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	0	0
			職域関係	0	0
			一 般	0	0
		応急手当 講習	学校関係	3	154
			職域関係	22	470
			一 般	3	73
		短時間 講習	学校関係	35	683
			職域関係	14	423
			一 般	1	75
	上級救命講習			1	24
	普及員講習			2	24
	指導員講習			1	8
患者等搬送事業者			0	0	
計			154	3,571	
	合計			500	10,790

14、市民による応急手当実施状況

令和元年の市民による応急手当の実施状況は、止血の実施件数が116件と最も多く次いで胸骨圧迫85件、移動62件の順となっている。また、市民によるAED装着は8件であり、8件のうち3件で電気ショックが行なわれていた。(図14-1) 119番通報時に指令員が実施する口頭指導での応急手当の実施状況は、止血処置が最多で61.4%の実施率となっている。(図14-2)

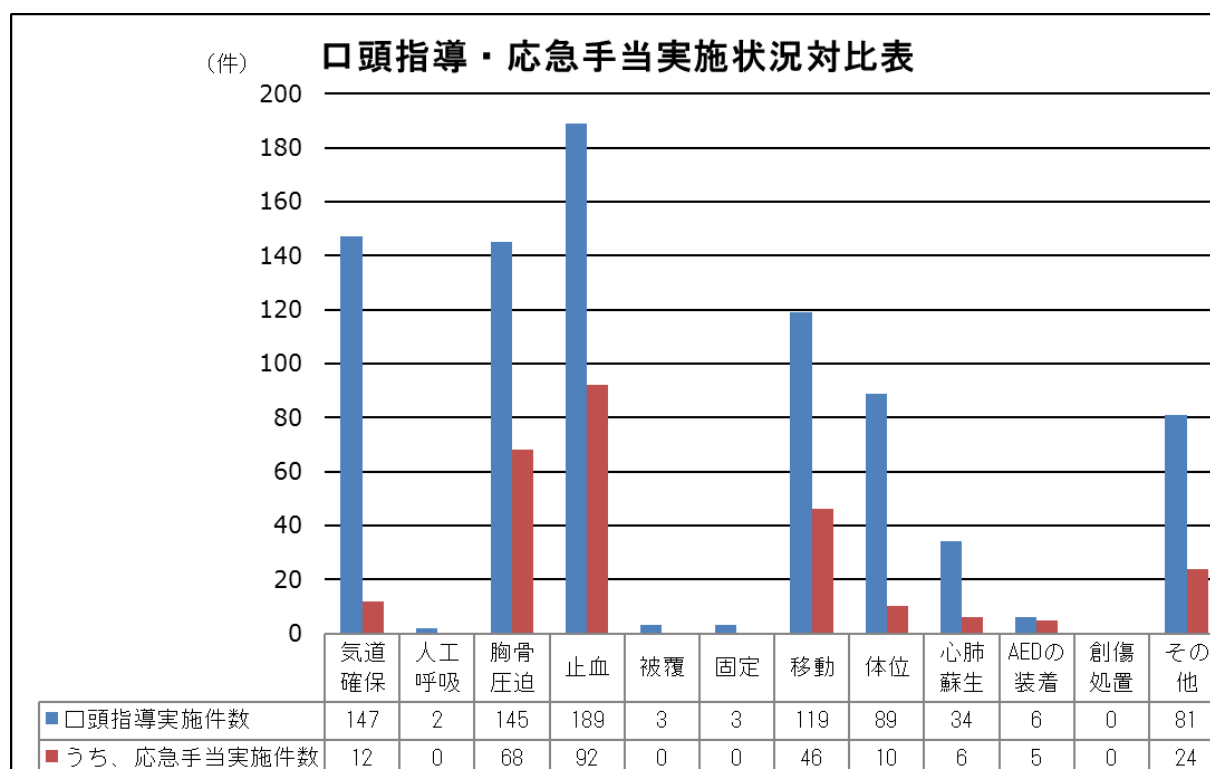
図14-1 市民による応急手当実施状況



※心肺蘇生は、人工呼吸と胸骨圧迫の両方を実施したもの。

※その他は、上記以外の冷却などの処置。

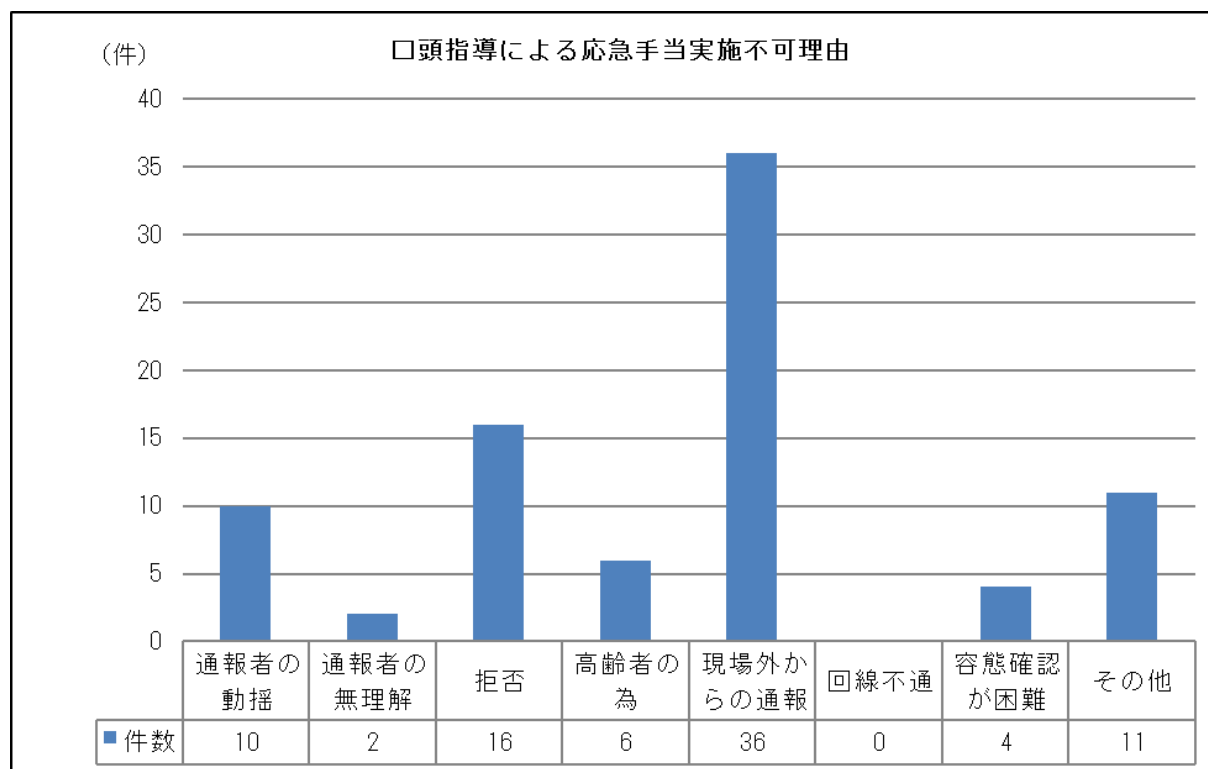
図14-2 口頭指導・応急手当実施状況対比表



15、口頭指導による応急手当実施不可理由

口頭指導を行なったが応急手当を実施できなかった理由として、現場外からの通報の36件が最も多く、拒否16件、通報者の動揺10件と続いている。その他の内訳としては「症状回復、死亡徴候が見られる、電話を切られた」等がある。(図15-1)

図15-1 口頭指導による応急手当実施不可理由



※すべての救急事案で聴取することは不可能なため、聴取可能だった事案のみ統計に反映している。

16、周産期救急の出動状況

令和元年の周産期救急は26件（0.4％）で、病院前分娩は0件であった。周産期救急における搬送状況は転院搬送が22件（84.6％）となっている。（表16-1、表16-5）

表16-1 救急出動件数と周産期救急傷病者搬送件数

	救急出動件数	周産期救急傷病者搬送件数	事故種別別出動状況	
H28	5,530 件	51 件	母体	転院搬送21、急病6、交通3、その他1
			新生児	転院搬送18、急病 2
H29	5,662 件	43 件	母体	転院搬送18、急病8
			新生児	転院搬送17
H30	5,848 件	28 件	母体	転院搬送13、急病2、交通1
			新生児	転院搬送12
R1	6,030 件	26 件	母体	転院搬送14、急病2、交通1、自損1
			新生児	転院搬送8

表16-2 周産期救急の搬送先医療機関

	H28	H29	H30	R1
三次医療機関	46 件	36 件	26 件	22件
二次医療機関	4 件	4 件	1 件	1 件
管外医療機関	1 件	3 件	1 件	3 件

表16-3 周産期救急の傷病分類

傷病名	H28	H29	H30	R1
切迫早産	7件	12件	4件	5件
切迫流産	2件	0件	0件	1件
常位胎盤早期剥離	3件	0件	2件	0件
異所性妊娠（子宮外妊娠）	2件	0件	1件	1件
破水	1件	4件	5件	4件
妊娠高血圧症候群	3件	1件	0件	0件
分娩（及びそれに関係するもの含む）	3件	3件	0件	3件
その他 ※1	7件	5件	3件	2件
周産期以外の疾患 ※2※3	3件	1件	1件	2件

※1 その他（内訳）：妊娠初期1・不正出血1 ※2 傷病者は妊娠中であるが、その他の疾患により救急搬送されたもの。

※3 周産期以外の疾患（内訳）：薬物過量服薬1・交通1

表 16-4 新生児救急の傷病分類

傷病名	H28	H29	H30	R1
新生児仮死	1件	2件	3件	0件
一過性多呼吸（新生児呼吸障害含む）	4件	3件	0件	1件
子宮内感染症	2件	1件	2件	0件
新生児低血糖症	1件	1件	0件	0件
心室中隔欠損	2件	1件	0件	0件
新生児気胸	1件	1件	0件	0件
新生児黄疸	0件	1件	1件	0件
低出生体重児	0件	2件	1件	1件
その他疾患	9件	5件	5件	6件

※その他疾患：縦隔気腫・低酸素血症・感染・完全大血管転位・先天性心奇形・鎖肛

表 16-5 自宅分娩及び車中分娩件数

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
5 件	1 件	2 件	1 件	1 件	0 件	1 件	0 件	2 件	1 件	0 件	0 件

17、ドクターカー出動状況

平成 25 年 5 月より北見赤十字病院の保有する周産期救急ドクターカーを北見地区消防組合が協定により運行している。

病院前周産期救急診療及び重度傷病者に対する救急診療等が対象となり、医師・看護師及び救急救命士が乗車し早期に診療を開始することで救命率向上を図ることを目的としている。

令和元年中の出動件数は 20 件、内訳は施設間搬送（転院搬送）に係るものが 8 割を超え、医師搬送が 3 件であった。